

教育改善スキル修得オンラインプログラム第二弾「自律学習支援編」の実装

Implementation of Educational Reform Skill Learning Online Program: 2nd Course on Autonomous Learning Assistance

鈴木克明・喜多敏博・平岡齊士・山下 藍
Katsuaki Suzuki, Toshihiro Kita, Naoshi Hiraoka, Ai Yamashita
熊本大学教授システム学研究センター
Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University
Email: ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp

あらまし：次世代の大学教員準備を目指して、教育系大学間共同利用拠点が提供するオンラインプログラムの一環として構想した「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第二弾「自律学習支援編」の実装について概観する。自律学習支援編は、第一弾「科目デザイン編」の後続にあたり、大学生を自律的な学習者に育てるために大学の授業にどのような工夫ができるかを提言することを目指すものである。すでに無料版が全面公開され、有料版が履修証明制度によるプログラムとして開始している。

キーワード：インストラクショナルデザイン、自律学習支援、FD、高等教育、教育改善スキル

1. はじめに

熊本大学教授システム学研究センターは、2018年度に「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」として文科省教育関係大学間共同利用拠点としての認定を受けて以来、日本全国の大学教員と大学院生を対象として「教育改善スキル修得オンラインプログラム」を公開している⁽¹⁾⁽²⁾。オンライン大学院「教授システム学専攻」(以下、GSIS)での教育実践とその背景にある教授設計学(以下、ID)を背景に、これまでの多くの大学における教職員職能育成プログラム(FD)が現在の大学での職能を発揮することに留まっていると考えられる限界を意識し、現状への適応ではなく次世代の大学を構築していく教員になる準備と位置づけた挑戦的な内容とすることを目指したものである。

本発表では、「科目デザイン編」に続く第二弾として構想した「自律学習支援編」⁽³⁾の実装について、デザイン提案と利用状況を紹介する。

2. 「自律学習支援編」の構成

教育改善スキル修得オンラインプログラム「自律学習支援編」は「科目デザイン編」の続編と位置づけて構想した⁽³⁾。「科目デザイン編」と同様に5つのモジュールで構成した(表1：再掲⁽³⁾)。「科目デザイン編」ではテキストとして用いることを予告して「あとがき」のみを実際に活用した大学1年生向けの教科書『学習設計マニュアル』⁽⁴⁾を主たる情報源として採用した。

3. デザイン提案

表2に、モジュール3で扱う学生が学び合う場をつくるためのデザイン提案を7つ、表3には、モジュール4で扱う学生を自己調整学習者に育てるための提案7つを示す。

表1：「自律学習支援編」の5つのモジュール⁽³⁾

モジュール	テキスト
1：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる	『学習設計マニュアル』第一部(第1～5, 16章)
2：自学自習を促す ICT 活用	鈴木(2013) ⁽⁵⁾ を発展させて独自開発
3：学びの場をつくる	『学習設計マニュアル』第二部(第6～10章)
4：学習スキルを学ぶきっかけをつくる	『学習設計マニュアル』第三部(第11～15章)
5：最終課題：自己変革への行動計画を立てる(有料のみ)	『学習設計マニュアル』第19章(第四部)

4. 無料版の公開と有料版の開始

2021年度に無料版を順次公開し、有料版実施の準備を進めた。無料版は、第一弾「科目デザイン編」と同様に、Moodle上に実装した。全モジュールに含まれている7つずつの提案についての説明コンテンツに加えて、提案についての理解度を確認するためのクイズや実装事例等がアクセス可能になっている。有料版では、無料版で提供されているコンテンツに加えて、掲示板での意見交換や課題提出、本センター教員によるフィードバック・採点、2回の対面または同期型のワークショップ(東京で開催)、eポートフォリオの作成補助と学習者間での共有の機能が利用可能であり、合格者には、文科省履修証明プログラムの修了書が交付される。

有料版の講座(第1期)は、センター関係者8人の協力を得て形成的評価と修正作業を経た上で、2021年10月11日(月)から2022年2月18日(金)までの任意の60時間を学習期間として実施され、受講者7人全員が履修証明書を獲得した。

5. おわりに

「自律学習支援編」は、2020年3月から2021年2月までの間に、モジュール単位で延べ589名（IPアドレス）のアクセスがあった。また、無料版プログラムの修了要件を満たしてモジュール単位のデジタルバッジを取得した受講者数は、延べ46名となった。

「科目デザイン編」と同様に、第二弾「自律学習支援編」についても、ポストコロナ時代の大学のレベルアップのガイドとして、また、プレFDの努力義務化が通達されたことも追い風に、現役の大学教員や次世代の大学をデザインしていくことに関心を寄せている方々に、個人として、あるいは組織としての活用が広がることを期待している。有料版第2期は2022年9月9日（金）までの募集で、今年度後期に実施予定である。組織単位の利用についても相談に応じていきたいと考えている。

参考文献

- (1) <https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/onlineprogramlists/>
- (2) 鈴木克明・喜多敏博・平岡斉士・長岡千香子（2019.9）教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編)の構想と無料版・有料版の公開. 第44回教育システム情報学会全国大会（静岡大学）発表論文集, 425-426
- (3) 鈴木克明・喜多敏博・平岡斉士・長岡千香子・山下藍・張曉紅（2020.9）教育改善スキル修得オンラインプログラム第二弾「自律学習支援編」の構想. 第45回教育システム情報学会全国大会発表論文集, 51-52
- (4) 鈴木克明・美馬のゆり（編著）（2018）『学習設計マニュアル:おとなになるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
- (5) 鈴木克明（2013）eラーニング活用による教授法の再構築に向けて. 工学教育, 61(3): 14-18

表2：学びの場を作る（学びの場の提供）デザイン提案（モジュール3）

7つの提案	内容
アサーティブな自己主張を意識させる	アサーティブと他のタイプの自己主張を比べ、アサーティブに自己主張する方法 DESC 法を学ぶ
学習経験の質を高める	学習状況の要因と学習者個人の要因とで学習経験の質を高める枠組みとしてパリッシュの学習経験モデルを学ぶ
アクティブラーニング技法を取り入れる	アクティブラーニング手法として5つの分類の30の技法があることを知り、いくつか経験してみる
アイデアの発散と収束を経験させる	発散技法としてのブレインストーミングと収束技法としてのKJ法を知り、実際に経験してみる
グループを成熟させる	グループ活動の目的、グランドルール、構成要素などを実践を通して体験し、グループには成長段階があることを体験的に学ぶ
時間管理の方法を伝授する	タイムマネジメント度チェックリストを活用して時間管理の現状を知り、キャロルの学校学習の時間モデルで工夫の余地があることを学ぶ
失敗を恐れない技術を伝授する	「失敗力自己チェックリスト」で現状を把握し、援助要請やコーピングスキルなどを学ぶ

表3：学生を自己調整学習者に育てるデザイン提案（モジュール4）

7つの提案	内容
学習意欲を高める対策を検討する	ARCS モデルを学び、授業の魅力を高める工夫をするだけでなく、学生自身にも「自分の学習意欲を高める作戦」が使えるように導く工夫を学ぶ
学びのプロセスを意識する	ガニエの9教授事象を学び、担当科目の教え方を点検するとともに、学生が「学びのプロセスを意識する」ことができる工夫を学ぶ
出入口を明確にする	教員が与えた出口（単位取得要件）に到達するための手段を自分で考え、自分で調整しながら進めていける人を育てる工夫を学ぶ
学習課題の種類に合った学び方・教え方を選ぶ	学習成果の5分類を学び、目指す学習成果が異なれば効果的な教え方・学び方も異なるということを学ぶ
教える前に挑戦させる	IDの第一原理を学び、教える前にやってみるチャンスを与えることが無駄を省くと同時に自己調整力を育てることにつながることを学ぶ
学習スタイルの拡張を支援する	コルブの経験学習モデルを学び、得意な学習スタイルを伸ばして苦手を補強することが自律的な学び手に育てる支援であることを学ぶ
自己調整学習とは何かを教える	自己調整学習の3つの要素と3つの段階を学び、アクションプランをつくることの重要性を学ぶ